

祐天寺駅周辺地区整備構想素案について

1 背景等

祐天寺駅周辺地区は、目黒区都市計画マスタープラン(平成16年3月策定)において、商業施設をはじめ地域コミュニティを支える多様な都市機能、子どもから高齢者までだれもが利用しやすい道路や公共施設が整備され、日常的な活動や交流の中心となる拠点として「地区生活拠点」に位置付けられている。

当該地区では、昭和62年から平成18年まで木造住宅密集地域整備事業を行ってきたほか、平成2年1月に祐天寺栄通り地区地区計画を定めるなど、区内では早い段階から街づくりを進めてきた。

近年、東急東横線と副都心線の相互乗り入れや、駅ホームの延伸に伴う高架下の店舗、駐車場・駐輪場が整備されるとともに、平成30年10月に新たな駅ビルが開業し、鉄道に関連して街は変化の兆しを見せている。さらに、平成29年3月には、地域住民による街づくり研究会が発足し、駅前広場の利用形態について自主的な勉強会が開催されるなど、街の変化を捉えた街づくりの機運が高まり、平成29年6月に町会・自治会、住区住民会議及び商店街の代表者より駅前広場の整備について要望があった。

こうした状況を踏まえ、祐天寺駅周辺における街の変化や地域特性を踏まえた街づくりを進めていくため、街づくり懇談会を開催するなど地域住民の意見等を伺いながら、祐天寺駅周辺地区整備構想素案(資料1)をとりまとめた。

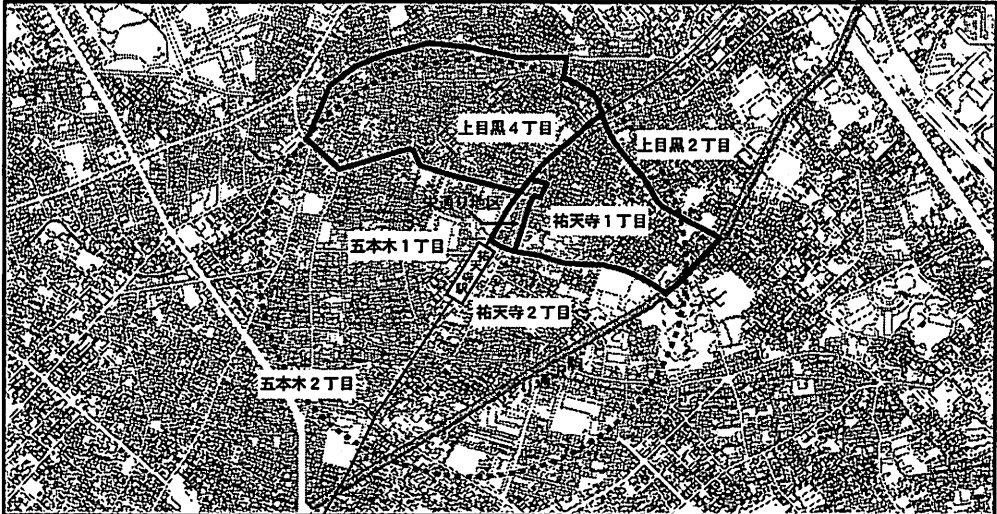
2 現状と課題 (資料2)

整備構想のエリアは、祐天寺駅を中心とした概ね半径500m圏を対象範囲とする。

当該エリアは、建物の老朽化や道路が狭いなどの課題があり、市街地の燃えにくさを表す指標の不燃領域率で見ると、祐天寺1丁目(48.8%)や上目黒4丁目(50.7%)が低い状況にある。さらに、交通安全対策(バス通りなど)や商店街の活性化などの課題もあり、災害に強く安全・安心で賑わいと活力のある街が求められている。

また、街の新たなシンボルとなる駅舎や駅ビルの開業に伴い、地域住民からは、駅前広場を駅と一体化し使いやすい広場として整備して欲しい旨の要望がある。

(対象範囲)



3 地区の将来像 (資料2)

地区の将来像として、現在及び未来にわたり地域の皆様が健全で豊かに暮らし続け、様々な活動が活発に営まれるよう10年後の本地区の将来像として「多様な歴史と文化が交流・調和・創造する 誰もが住み続けられる安全・安心なまち 祐天寺」と設定した。

4 街づくりの目標 (資料2)

地区の将来像を実現するために目指すべき方向性を定め、街づくりに取り組む目標を示した。

目標1：新旧様々な店舗の集積による活力があり、安全で暮らしやすい居住環境が確保された街

目標2：安全で快適に移動できる街

目標3：地域資源を活用した歩いて楽しめる街

目標4：豊かな地域コミュニティに育まれる街

5 街づくりの進め方 (資料2)

地域で街づくりに取り組んでいくためには、「区民」「事業者」「区」のそれぞれが自主的に役割を担いつつ、それぞれの主体が連携、協働しつつ街づくりを実践していく。

6 目標年次

目標年次は、整備構想策定時の平成31年度から10年間とする。

ただし、必要に応じて概ね5年で見直しをする。

7 今後の予定

平成31年4月11日～令和元年5月21日 パブリックコメント

区報、ホームページ等で周知

令和元年5月8日 説明会

7月 整備構想の策定

～令和2年3月 整備方針の策定

令和2年度 整備計画の策定

以 上